

クラスタ環境でのアップグレード手順

(SigmaSystemCenter 1.3 から SigmaSystemCenter 3.0 へのアップグレード)

対象バージョン:SSC3.0, SSC3.0 Update1

概要

本手順は、クラスタ環境に構築された SigmaSystemCenter 1.3 を SigmaSystemCenter 3.0 にアップグレードインストールする際の手順について記載します。

本手順では CLUSTERPRO X 3.0 を使用した場合の具体的な手順を記載しています。

他のクラスタ製品、または別バージョンの CLUSTERPRO を使用されている場合は、

「アップグレードインストール手順の流れ」を参考にして、アップグレードインストールを行ってください。

本手順内で、CLUSTERPRO X 3.0 の設定を SigmaSystemCenter 3.0 用に変更する必要があります。設定内容の変更点については、「SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 3.0 の設定内容の変更点」を参照ください。

不明点などありましたら、問い合わせ窓口にお問い合わせください。

本手順は、SigmaSystemCenter 3.0 でデータベースに SQL Server 2008 R2 上位ディションを使用することを前提としています。

その他のクラスタ環境構成、前提条件については「クラスタ環境構成、前提条件」を参照ください。

関連マニュアル

本書内で参照するマニュアルは以下の通りです。

- ・SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料 第4版
- ・SigmaSystemCenter 3.0 クラスタ構築手順 最新版
- ・SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド 第1版/第2版 ※

※アップグレードするバージョンによって、参照する「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」の版数が異なりますので、下記の該当するマニュアルを参照してください。

なお、本マニュアルでは、参照先は第2版の内容を記載しています。SSC3.0 を使用される場合は、第1版の内容に読み替えてください。

第1版 :SSC3.0 をご使用の場合

第2版 :SSC3.0 Update1 をご使用の場合

以下のマニュアルも合わせてご参照ください。

- ・ CLUSTERPRO X 3.0 for Windows ソフトウェア構築ガイドの PP ガイド(データベース)

http://www.nec.co.jp/pfsoft/clusterpro/clp/windows/document/pp_x.html

クラスタ環境構成、前提条件

本手順では、以下のクラスタ環境構成、前提条件でアップグレードインストールを行うものとして記載しています。

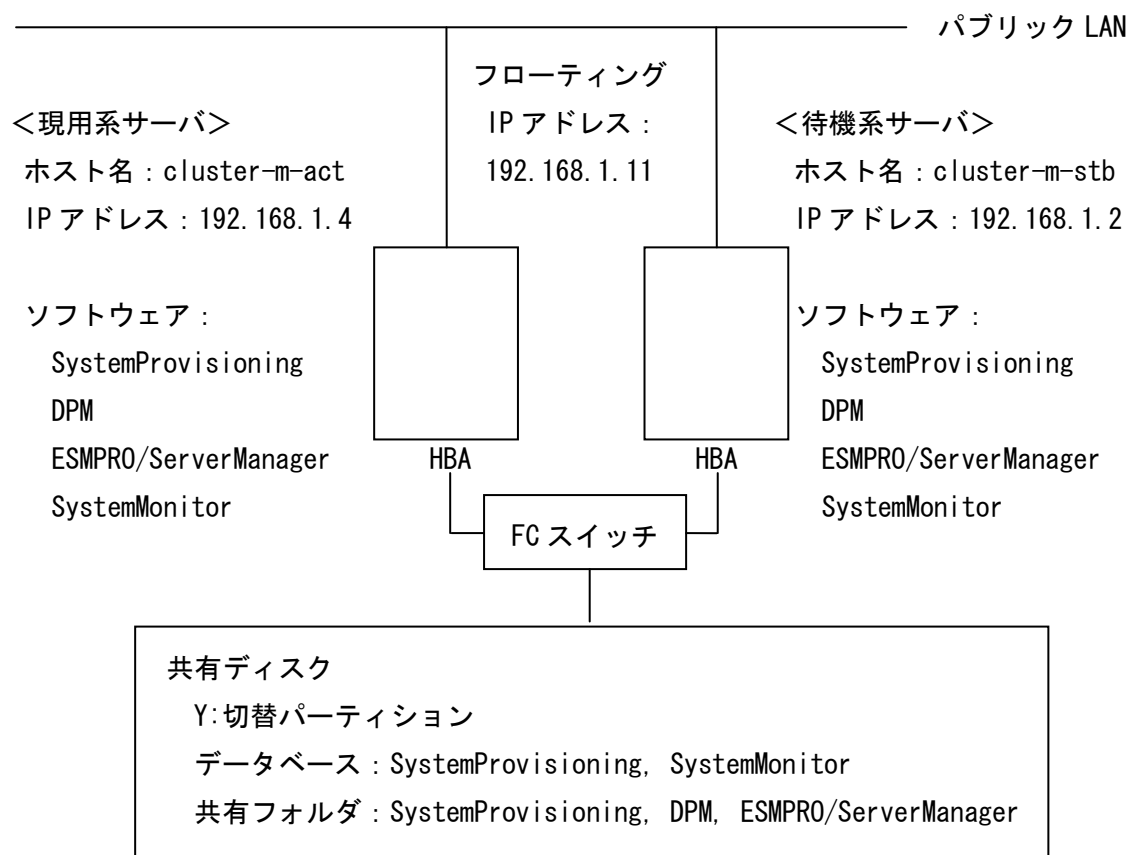
■クラスタ環境

現用系：1 台 / 待機系：1 台 の計 2 台による「2 ノード・共有ディスクまたは、ミラーディスク・片方向スタンバイ」構成

共有ストレージ：iStorage S1500 （HBA による FC 接続）

■クラスタ構成イメージ（共有ディスクの場合）

（IP アドレス、ドライブ名などは例です。）



■前提条件 1

本手順では、スクリプトリソースにて、データベースのアタッチ、デタッチは現用系サーバ、待機系サーバとも以下であるという前提で記載しています。

- ・ 現用系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

- ・ 待機系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

上記と異なる場合は、データベースのアタッチ、デタッチの手順を適宜修正してください。

例えば、以下のように現用系サーバでアタッチ、デタッチしない場合は「アップグレードインストール手順の流れ」の手順のうち、該当する箇所を下記「変更点」のように変更してください。

- ・ 現用系サーバ

開始スクリプト：アタッチしない

終了スクリプト：デタッチしない

- ・ 待機系サーバ

開始スクリプト：アタッチする

終了スクリプト：デタッチする

[変更点]

6. インストールを行う前に（データベースのアタッチ）

→「6. インストールを行う前に（データベースのアタッチ）」手順でのアタッチは実施不要です。

10. データベースの移行

→データベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行した後、データベースのアタッチが必要です。

「10. データベースの移行」の手順の最後にそれぞれ以下のコマンドを実行してください。
DeploymentManager、SystemProvisioning のデータベースがアタッチされます。

- DeploymentManager

```
-----  
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI  
1> sp_attach_db 'DPM',  
    @filename1='Y:¥Data¥DPM_DATA.MDF',  
    @filename2='Y:¥Data¥DPM_LOG.LDF'  
2> go  
-----
```

- SystemProvisioning

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E ※  
1> sp_attach_db 'pvminf',  
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',  
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_2.ndf ',  
    @filename3='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'  
2> go  
-----
```

※インスタンス名を既定値（SSCCMDB）より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

11. データベースのデタッチ

→「11. データベースのデタッチ」の手順のうち、2. の手順（SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチ）は実施不要です。

1. および 3. の手順（サービスの停止）のみを行ってください。

■前提条件 2

ご使用の環境が x86 OS と x64 OS でレジストリ、インストール先フォルダが異なります。
本手順では、レジストリ、インストール先フォルダは x86 OS の表記ですので、適宜読み替えてください。

レジストリ

x86 OS : HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC

x64 OS : HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC

SigmaSystemCenter コンポーネントのインストール先フォルダ (既定値)

x86 OS : C:¥Program Files¥NEC

x64 OS : C:¥Program Files (x86)¥NEC

SQL Server のインストール先フォルダ (既定値)

x86 OS : C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server

x64 OS : SQL Server x64 の場合は、C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server

SQL Server x86 の場合は、C:¥Program Files (x86)¥Microsoft SQL Server

アップグレードインストール手順の流れ

アップグレードインストール手順の流れを記載します。

1. 現用系サーバのアップグレード

1.1. 現用系サーバアップグレードの前準備

1. アップグレードインストール前の確認
2. CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除
 - スクリプトリソースを削除し、監視対象サービスを監視から外す。
 - レジストリ同期リソースを削除し、レジストリを同期対象から外す。
 - サービスリソースを削除し、監視対象サービスを監視から外す。
(サービスリソースで SigmaSystemCenter 関連のサービスを管理している場合のみ)
3. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1、WindowsInstaller 4.5 のインストール)
4. インストールを行う前に (SQL Server 2008 R2 上位エディションのインストール)
 - SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用するインスタンス (SSCCMDB)、および DeploymentManager が使用するインスタンス (DPMDBI) をインストールする。
5. インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)
 - SQL インスタンスサービスを手動で起動する。
6. インストールを行う前に (データベースのアタッチ)
 - デタッチされたデータベースをアタッチする。

1.2. 現用系サーバアップグレード作業

7. ソフトウェアのアップグレードインストール
 - SigmaSystemCenter 3.0 にアップグレードインストールする。
8. SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール
9. サービスの設定

- サービスを "手動" に設定する。

10. データベースの移行

- DeploymentManager、SystemProvisioning のデータベースを、共有ディスク / ミラーディスクへ移動する。
- データベースの移動後、データベースへのアタッチは行わない。

11. データベースのデタッチ

- SystemMonitor 性能監視のデータベースをデタッチする。

12. ESMPRO/ServerManager が使用するファイル / フォルダの共有ディスク / ミラーディスクへの移動

- ESMPRO/ServerManager が使用するファイルを共有ディスク / ミラーディスクへ移動する。
- ESMPRO/ServerManager の設定ファイルを編集する。

13. 不要な設定ファイルの削除

- 不要な SystemProvisioning の設定ファイルを削除する。

14. クラスタシステムのリブート

2. 待機系サーバのアップグレード

2.1. 待機系サーバアップグレードの前準備

15. フェイルオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

16. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1、WindowsInstaller 4.5 のインストール)

17. インストールを行う前に (SQL Server 2008 R2 上位エディションのインストール)

- SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用するインスタンス (SSCCMDB)、および DeploymentManager が使用するインスタンス (DPMDBI) をインストールする。

2.2. 待機系サーバアップグレード作業

18. ソフトウェアのアップグレードインストール (待機系サーバでの作業)
 - SigmaSystemCenter 3.0 にアップグレードインストールする。
19. SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール
20. サービスの設定
 - サービスを "手動" に設定する。
21. データベースのデタッチ
 - DeploymentManager のデータベースをデタッチする。
22. ESMPRO/ServerManager の設定ファイルの編集
 - ESMPRO/ServerManager の設定ファイルを編集する。
23. サービスの停止
 - アップグレードインストール中に開始されたサービスを停止する。

3. アップグレード完了後の作業

24. フェイルオーバーグループ内のリソースを現用系で起動
25. CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの変更
 - スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、サービスリソースを SigmaSystemCenter 3.0 用の構成情報に変更 (復元) する。
26. クラスタシステムのリブート
27. CLUSTERPRO での監視対象サービスの監視の停止 (現用系サーバでの作業)
28. Web ブラウザのキャッシュクリア (現用系サーバでの作業)
29. アップグレードインストール後に必要な設定の実施 (現用系サーバでの作業)
 - DeploymentManager、SystemProvisioning の設定を行う。
30. フェイルオーバーグループ内のリソースを待機系で起動
31. Web ブラウザのキャッシュクリア (待機系サーバでの作業)

32. アップグレードインストール後に必要な設定の実施 (待機系サーバでの作業)

- DeploymentManager の設定を行う。

33. フェイルオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

34. アップグレードインストール後に必要な設定の実施 (現用系サーバでの作業)

- SystemProvisioning の設定を行う。

4. 管理対象マシンのアップグレード

35. 管理対象マシンのアップグレードインストール

- 管理対象マシンの DPM クライアントのアップグレードインストールを行う。

アップグレードインストール手順

以降は、CLUSTERPRO X 3.0 を使用した場合の具体的なインストール手順を記載します。

1. アップグレードインストール前の確認

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

1. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」(以下、省略します) の「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および事前作業を実施します。
 1. 「3.2.1. 動作環境の確認・準備」の手順を実施してください。
 2. 「3.2.2. アップグレードインストールを行う際の注意」の手順を実施してください。
 3. 「3.2.7. DPM サーバ (管理サーバ for DPM) をアップグレードインストールする際の注意」の手順を実施してください。
 4. 「3.2.8. SystemProvisioning のアップグレードインストールに関する注意」の手順を実施してください。
 5. 「3.2.9. 管理サーバ for DPM (HP-UX) と連携している場合」の手順を実施してください。
 6. 「3.2.10. NetvisorPro と連携している場合」の手順を実施してください。

2. CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

SigmaSystemCenter の各コンポーネントのコンソール、ツールなどを起動している場合は、終了してください。

また、すべての Web ブラウザなどのアプリケーションを閉じて終了してください。

1. CLUSTERPRO のサービス停止

1. 作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。

2. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
3. WebManager 画面の上部にある [サービス] をクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ停止(T)」を選択します。
4. 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックして停止します。
※処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
5. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
6. WebManager 画面の左サイドビューに、「停止」というメッセージが表示されていることを確認します。
7. CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行います。

2. CLUSTERPRO Builder の起動と構成情報の保存

1. WebManager 画面のツールバーのドロップダウンメニューで [設定モード] を選択して、CLUSTERPRO Builder を起動します。
2. 現在の CLUSTERPRO の構成情報を保存するため、CLUSTERPRO Builder の [ファイル(F)] メニューをクリックし、プルダウンメニューから [設定のエクスポート(E)] をクリックします。
3. 「保存」画面が表示されたら、現用系サーバ上の任意のフォルダ (例えば C:\TEMP) を指定し、clp.conf というファイル名が表示されているのを確認して [保存] をクリックします。

3. スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、およびサービスリソースの削除

1. 左サイドビューの中で、[Groups] フォルダの中の [failoverxxx] をクリックします。
2. 右サイドビューの [リソース一覧] タブをクリックし、フェイルオーバーグループに設定されているリソースを表示させます。
3. 項目名の「タイプ」で "スクリプトリソース" と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから [リソースの削除(R)] をクリックします。
4. 「scriptxxx が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。
5. 項目名の「タイプ」で "レジストリ同期リソース" と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから [リソースの削除(R)] をクリックします。
6. 「regsyncxxx が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。

7. 項目名の「タイプ」で "サービスリソース" と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから [リソースの削除(R)] をクリックします。

(サービスリソースで SigmaSystemCenter 関連のサービスを管理していない場合は、本手順を実施する必要ありません。)

8. 「servicexxx が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。

(サービスリソースで SigmaSystemCenter 関連のサービスを管理していない場合は、本手順を実施する必要ありません。)

4. 情報ファイルのアップロードと CLUSTERPRO Builder の終了

1. 現在の CLUSTERPRO の構成情報をアップロードするため、CLUSTERPRO Builder の [ファイル(F)] メニューをクリックし、プルダウンメニューから [設定の反映(A)] をクリックします。
2. 「確認」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
3. しばらくすると「反映に成功しました。」という画面が表示されるので、[了解] をクリックします。
4. WebManager 画面のツールバーのドロップダウンメニューで [操作モード] を選択して、CLUSTERPRO Builder を終了します。

5. CLUSTERPRO のサービス開始

1. WebManager 画面の上部にある [サービス] をクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ開始(A)」を選択します。
2. 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
3. しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューに「クラスタ構成」画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色 (正常) であることを確認します。

3. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1、Windows Installer 4.5 のインストール)

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストールが完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。更新プログラムの詳細およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

1. 以下の手順で.NET Framework 3.5 SP1、および WindowsInstaller 4.5 をインストールしてください。

1. SigmaSystemCenter 3.0 DVD-R を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール DVD-R:¥ManagerSetup.exe /ONLYDOTNETFX=1

3. インストーラが起動し、ウィザードが開始します。

ウィザードに従ってインストールを実行してください。

4. 「コンポーネントの選択」画面で、以下のコンポーネントのみを選択して、[次へ(N)>] をクリックしてください。その後はウィザードに従ってインストールを実行してください。インストールが開始します。

なお、以下のコンポーネントが選択不可の場合は、本手順を実施する必要ありません。

- Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1
- Windows Installer 4.5

2. .NET Framework 3.5 SP1、および WindowsInstaller 4.5 のインストール終了後、OS 再起動を促すメッセージが表示された場合は、[いいえ(N)] をクリックして、インストーラを終了してください。その後、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

※OS 再起動を促すメッセージが表示されなかった場合は、以降の手順の実施は不要です。

1. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
2. WebManager 画面の左サイドビューにある "クラスタ名" を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート(B)」を選択します。
3. 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
4. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
5. しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
6. OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。

7. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
8. しばらくすると、マネージャ画面の左サイドビューに「クラスタ構成」画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

4. インストールを行う前に（SQL Server 2008 R2 上位エディションのインストール）

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※本手順では、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視、DeploymentManager が SigmaSystemCenter 3.0 で使用する SQL Server 2008 R2 上位エディションのインスタンス (SSCCMDB、DPMDBI) をインストールします。

※SQL Server 2008 R2 のインストール手順については以下も参照ください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143219\(v=SQL.105\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143219(v=SQL.105).aspx)

※SigmaSystemCenter 1.3 の運用にて、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを SQL Server 2005 上位エディションに構築している場合も、本手順に従って SigmaSystemCenter 3.0 で使用するためのインスタンスをインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL Server 2005 上位エディションのインスタンスを、SigmaSystemCenter 3.0 で使用することができないためです。

以下の手順に従って、SSCCMDB (※1)、DPMDBI (※2) のそれぞれのインスタンスをインストールしてください。

(※1) SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用するインスタンス名の既定値は

SSCCMDB です。インスタンス名を変更する場合は読み替えてください。

(※2) DeploymentManager が使用するインスタンス名は DPMDBI にする必要があります。

1. SQL Server 2008 R2 上位エディションの DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. DVD / CD-RW ドライブ配下の setup.exe をダブルクリックします。
3. インストーラの画面が起動します。
表示される画面に従って操作を進めてください。

4. セットアップの途中で、「機能の選択」ダイアログボックスが表示されます。

以下のチェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。

- SSCCMDB の場合 : [データベース エンジン サービス]
- DPMDBI の場合 : [データベース エンジン サービス]、[SQL Server レプリケーション]

5. 「インスタンスの構成」ダイアログボックスが表示されます。

[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」、または「DPMDBI」と入力し、[次へ(N)] をクリックします。

6. 「サーバーの構成」ダイアログボックスが表示されます。

[SQL Server Database Engine] サービスのアカウント名に [NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。

7. セットアップの途中で、「データベース エンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。

[Windows 認証モード(W)] をオンにします。

以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

8. セットアップ完了時に、OS 再起動を促すメッセージが表示される場合があります。

その場合は、SQL Server のインストールを終了させた後、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

※OS 再起動を促すメッセージが表示されなかった場合は、実施は不要です。

1. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
2. WebManager 画面の左サイドビューにある "クラスタ名" を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート(B)」を選択します。
3. 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
4. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
5. しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
6. OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。

7. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
8. しばらくすると、マネージャ画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
9. 以下のいずれかの方法で、インストールした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。
 - Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
 - SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。
10. SSCCMDB、DPMDBI のインスタンスをインストールした後、[スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

開始するサービス一覧

[DeploymentManager]

- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning]、および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB) ※

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

5. インストールを行う前に（必要な各コンポーネントのサービスの手動起動）

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のバージョンによって、サービスの表示名が異なります。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

開始するサービス一覧

[SystemProvisioning]

- MSSQL\$PVMINF_INSTANCE、または SQL Server (PVMINF_INSTANCE)

[SystemMonitor 性能監視]

- MSSQL\$RM_PFMDBIS、または SQL Server (RM_PFMDBIS) ※

※SystemMonitor 性能監視で使用するデータベースサービスはインストール時にインスタンス名を変更することが可能です。

インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、サービスの表示名は、"MSSQL\$インスタンス名"、または "SQL Server (インスタンス名)" となります。

6. インストールを行う前に（データベースのアタッチ）

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※本手順では、データベースの格納フォルダを以下とした場合を例にして記載します。

- ・共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

※SQL インスタンス接続後のプロンプト"1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、実際には 1 行で入力してください。

※それぞれの osql のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

1. SystemMonitor 性能監視のデータベースのアタッチを行います。
 1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```

-----
osql -S (local)¥RM_PFMDBIS -E ※
1> sp_attach_db 'RM_PerformanceDataBase2',
    @filename1='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2_log.ldf'
2> go
-----

```

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

2. SystemProvisioning のデータベースのアタッチを行います。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```

-----
osql -S (local)¥PVMINF_INSTANCE -E
1> sp_attach_db 'pvminf',
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'
2> go
-----

```

7. ソフトウェアのアップグレードインストール

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

1. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」(以下、省略します) の「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および事前作業を実施します。

1. 「3.2.3. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア」の手順を実施してください。

2. 「3.2.5. インストール (アップグレード) 実行前の注意」の部分は、以下の手順を実施してください。

SigmaSystemCenter のインストール (アップグレード) を始める前に、必ず使用しているアプリケーション、および Web ブラウザをすべて終了してください。

※CLUSTERPRO WebManager を起動している場合、Java 2 Runtime Environment のインストールに失敗する場合があります。必ず終了してください。

2. 「3.3. 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する」を参照して、アップグレードインストールを行います。

1. 「3.3.1. DPM のサービスを停止する」の手順に従って、Apache Tomcat サービス、および "DeploymentManager" で始まるサービスがすべて停止していることを確認してください。

停止していないサービスがある場合は、記載された手順を参照してプロセスを強制終了してください。

2. 「3.3.2. インストール (アップグレード) を実行するには」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SigmaSystemCenter 3.0 DVD-R を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール DVD-R:¥ManagerSetup.exe

3. インストーラが起動し、ウィザードが開始します。

3. 「3.3.3. コンポーネントの選択」の部分は、以下の手順を実施してください。

インストーラ起動後、「コンポーネントの選択」画面が表示されます。

インストールするコンポーネントを選択します。

[SQL Server 2008 R2 Express] チェックボックスをオフにしてください。

選択完了後、[次へ(N)>] をクリックします。

4. 「3.3.4. インストール先フォルダの選択」の手順を実施してください。
5. 「3.3.5. SQL Server 情報の設定」の部分は、以下の手順を実施してください。

「SQL Server 情報の設定」画面が表示されます。

「4. インストールを行う前に (SQL Server 2008 R2 上位エディションのインストール)」でインストールした SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用する SQL のインスタンス名 (既定値 : SSCCMDB) を指定してください。

6. 「3.3.6. Windows ファイアウォールの設定」の手順を実施してください。
7. 「3.3.7. ESMPRO/ServerManager の設定」の手順を実施してください。
8. 「3.3.8. インストール (アップグレード) の開始」の手順を実施してください。
9. 「3.3.9. インストール (アップグレード)の完了」の部分は、以下の手順を実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール後、「完了」画面が表示されます。

システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、[後で手動で再起動する] を選択して、[完了(F)] をクリックしてください。

※この時点ではシステムの再起動は行わないように注意してください。

3. 「3.4.3. SigmaSystemCenter 1.3 の Apache Tomcat をアンインストールするには」の手順を実施してください。

8. SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※本手順では、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のインスタンスのアンインストールを行います。

※インスタンスが SQL Server 2000 の場合と SQL Server 2005 の場合で、アンインストール手順が異なります。該当するほうの手順を参照ください。

■SQL Server 2000 の場合

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から以下のインスタンスを選択し、[削除] をクリックします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM_PFMDBIS ※

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

3. 表示される画面に従って操作を進めてください。

■SQL Server 2005 の場合

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で 以下のインスタンスをオンにします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM_PFMDBIS ※

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

4. 表示される画面に従って操作を進めてください。

9. サービスの設定

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※本手順では「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」を参照します。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

手動に設定するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- DianaScope ModemAgent
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Common Component
- ESMPRO/SM Trap Redirection
- ESMPRO/SM Web Container

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning]、および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB) ※

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で
「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

ただし、SigmaSystemCenter 1.3 の構築時に「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築
資料」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソー
ス (またはサービスリソース) によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順
を実施してください。

(サービスがスクリプトリソース (またはサービスリソース) によって起動されるように設
定していない場合は、本手順は実施不要です。)

手動に設定するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation

10. データベースの移行

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※SQL インスタンス接続後のプロンプト "1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、
実際には 1 行で入力してください。

※sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で
「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mftftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

[SystemProvisioning]

- PVMService

2. DeploymentManager のデータベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行します。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

ローカルのデータベースがデタッチされます。

```
-----  
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI  
1> alter database [DPM] set offline with ROLLBACK  
IMMEDIATE  
2> exec sp_detach_db 'DPM',TRUE  
3> go  
-----
```

2. データベースのインストール先フォルダに存在する、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクへ移動します。

- データベースのインストール先フォルダを「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Data」
- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」

- Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

とした場合

<移動するファイル>

DPM_DATA.MDF, DPM_LOG.LDF

<移動元>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL

Server¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Data

<移動先>

Y:¥Data

3. レジストリエディタを起動し、以下のレジストリを変更してください。

1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)] を選択します。
2. "regedit" と入力し、[OK] をクリックしてレジストリエディタを起動します。
3. 左サイドビューで
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager_D
Bを参照 (クリック) します。
4. 右サイドビューに値の一覧が表示されます。値の名前「DBInstallDir」の値のデータを以下のように変更します。

<変更前>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL

Server¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Data

<変更後>

Y:¥Data

5. 変更が完了したら、レジストリエディタを終了してください。

3. SystemProvisioning のデータベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行します。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。ローカルのデータベースがデタッチされます。

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E ※  
1> alter database [PVMINF] set offline with ROLLBACK  
IMMEDIATE  
2> exec sp_detach_db 'pvminf', true  
3> go  
-----
```

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

2. データベースのインストール先フォルダに存在する、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクへ移動します。

- データベースのインストール先フォルダを「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.SSCCMDB¥MSSQL¥Data」
- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

とした場合

<移動するファイル>

PVMINF.mdf, PVMINF_2.ndf, PVMINF_log.ldf

<移動元>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL
Server¥MSSQL10_50.SSCCMDB¥MSSQL¥Data

<移動先>

Y:¥Data

11. データベースのデタッチ

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※SQL インスタンス接続後のプロンプト "1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、実際には 1 行で入力してください。

※sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

2. SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチを行います。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E ※
1> alter database [RM_PerformanceDataBase2] set offline
    with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'RM_PerformanceDataBase2',TRUE
3> go
```

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

3. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning]、および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB) ※

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

※「別のサービスの停止」画面が表示された場合は、[はい(Y)] をクリックしてください。
サービスが停止されます。

=====

12. ESMPRO/ServerManager が使用するファイル / フォルダの共有ディスク / ミラーディスクへの移動

=====

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

1. 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティションへ以下の service フォルダを移動します。

- ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダを
「C:¥Program Files¥NEC¥SMM」
- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- Yドライブの service フォルダを「Y:¥SMM¥WEB-INF¥service」

とした場合

<移動元>

C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro
¥WEB-INF¥service

<移動先>

Y:¥SMM¥WEB-INF¥service

2. 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティションに移動した "WEB-INF" フォルダ (¥WEB-INF¥service) に格納されている options.txt を以下の要領で編集します。

```
-----  
EU_RM_PKG_DATAPOOL_PATH=Y:¥SMM¥pkgpool (※1)  
:  
CLUSTER_FIP=192.168.0.11 (※2)  
-----
```

(※1) 後述する更新パッケージ保存フォルダを記載してください。

(※2) フローティング IP アドレスを記載してください。(エントリが作成されていない場合は作成してください。)

3. 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティション上に以下の db フォルダを移動します。

※移動元の db フォルダが存在しない場合は、本手順は実施不要です。ただし、その場合も 2. の手順の options.txt の編集は必ず行う必要があります。

- ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダを
「C:¥Program Files¥NEC¥SMM」
- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- Yドライブの db フォルダを「Y:¥SMM¥WEB-INF¥db」

とした場合

<移動元>

C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro
¥WEB-INF¥db

<移動先>

Y:¥SMM¥WEB-INF¥db

4. 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティション上に以下の更新パッケージ保存 (pkgpool) フォルダを移動します。

※移動元の pkgpool フォルダが存在しない場合は、本手順は実施不要です。ただし、その場合も 2. の手順の options.txt の編集は必ず行う必要があります。

- ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダを
「C:¥Program Files¥NEC¥SMM」
- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- Yドライブの pkgpool フォルダを「Y:¥SMM¥pkgpool」

とした場合

<移動元>

C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥pkgpool

<移動先>

Y:¥SMM¥pkgpool

5. 以下のように設定ファイルを編集します。

- C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.ini

```
-----  
wrkdir=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service  
stderr=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service¥log¥stderr.log  
stdout=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service¥log¥stdout.log  
-----
```

- C:\Program Files\NEC\SMM\ESMWEB\jslweb\jsl.ini

```
-----
wrkdir=Y:\SMM\WEB-INF\service
stderr=Y:\SMM\WEB-INF\service\log\stderr.log
stdout=Y:\SMM\WEB-INF\service\log\stdout.log
-----
```

- C:\Program Files\NEC\SMM\ESMWEB\wbserver\webapps\axis2\WEB-INF\classes\eci.service.properties

```
-----
options.txt.fullpath=Y:\SMM\WEB-INF\service\options.txt
-----
```

※フォルダの区切り文字には "¥" を使用してください。

=====

13. 不要な設定ファイルの削除

=====

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

1. SystemProvisioning が使用する以下の DPM 情報ファイルを削除してください。

- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- Yドライブの DPM 情報ファイルを格納したフォルダを「Y:\PVM」

とした場合

<削除する設定ファイル>

Y:\PVM\DpmWebSvLst.txt

Y:\PVM\HPUX_DpmSvLst.txt

※DPM と連携設定していない場合、ファイルは存在しません。その場合、削除は不要です。

14. クラスタシステムのリブート

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

1. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
2. WebManager 画面の左サイドビューにある "クラスタ名" を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート (B)」を選択します。
3. 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
4. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
5. しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
6. OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。
7. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
8. しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューに「クラスタ構成」画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
9. CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行います。

15. フェイルオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

1. WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failoverxxx] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。

2. 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェイルオーバー) 先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

3. WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて "起動済" になることを確認します。

=====

16. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1、WindowsInstaller 4.5 のインストール)

=====

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストールが完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。更新プログラムの詳細およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

1. 以下の手順で.NET Framework 3.5 SP1、および WindowsInstaller 4.5 をインストールしてください。

1. SigmaSystemCenter 3.0 DVD-R を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストールを開始します。

インストール DVD-R:¥ManagerSetup.exe /ONLYDOTNETFX=1

3. インストーラが起動し、ウィザードが開始します。

ウィザードに従ってインストールを実行してください。

4. 「コンポーネントの選択」画面で、以下のコンポーネントのみを選択して、[次へ (N)>] をクリックしてください。その後はウィザードに従ってインストールを実行してください。インストールが開始します。

なお、以下のコンポーネントが選択不可の場合は、本手順を実施する必要ありません。

- Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1
- Windows Installer 4.5

2. .NET Framework 3.5 SP1、および WindowsInstaller 4.5 のインストール終了後、OS 再起動を促すメッセージが表示された場合は、[いいえ(N)] をクリックして、インストールを終了してください。その後、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

※OS 再起動を促すメッセージが表示されなかった場合は、以降の手順の実施は不要です。

1. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
 2. WebManager 画面の左サイドビューにある "クラスタ名" を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート(B)」を選択します。
 3. 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
 4. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
 5. しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
 6. OS が再起動したら、作業を行う待機系サーバに Administrator でログインします。
 7. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
 8. しばらくすると、マネージャ画面の左サイドビューに「クラスタ構成」画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
3. クラスタリブート後、待機系へのフェイルオーバーグループのリソース移動を行ってください。
 1. WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failoverxxx] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
 2. 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェイルオーバー) 先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。
※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
 3. WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて "起動済" になることを確認します。

17. インストールを行う前に (SQL Server 2008 R2 上位エディションのインストール)

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※本手順では、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視、DeploymentManager が SigmaSystemCenter 3.0 で使用する SQL Server 2008 R2 上位エディションのインスタンス (SSCCMDB、DPMDBI) をインストールします。

※SQL Server 2008 R2 のインストール手順については以下も参照ください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143219\(v=SQL.105\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143219(v=SQL.105).aspx)

※SigmaSystemCenter 1.3 の運用にて、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースを SQL Server 2005 上位エディションに構築している場合も、本手順に従って SigmaSystemCenter 3.0 で使用するためのインスタンスをインストールする必要があります。SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL Server 2005 上位エディションのインスタンスを、SigmaSystemCenter 3.0 で使用することができないためです。

以下の手順に従って、SSCCMDB (※1)、DPMDBI (※2) のそれぞれのインスタンスをインストールしてください。

(※1) SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用するインスタンス名の既定値は

SSCCMDB です。インスタンス名を変更する場合は読み替えてください。

(※2) DeploymentManager が使用するインスタンス名は DPMDBI にする必要があります。

1. SQL Server 2008 R2 上位エディション DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. DVD / CD-RW ドライブ配下の setup.exe をダブルクリックします。
3. インストーラの画面が起動します。
表示される画面に従って操作を進めてください。

4. セットアップの途中で、「機能の選択」ダイアログボックスが表示されます。
以下のチェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。

- SSCMDB の場合 : [データベース エンジン サービス]
- DPMDBI の場合 : [データベース エンジン サービス]、[SQL Server レプリケーション]

5. 「インスタンスの構成」ダイアログボックスが表示されます。

[名前付きインスタンス(A)] をオンにし、テキストボックスに「SSCCMDB」、または「DPMDBI」と入力し、[次へ(N)] をクリックします。

6. 「サーバーの構成」ダイアログボックスが表示されます。

[SQL Server Database Engine] サービスのアカウント名に [NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。

7. セットアップの途中で、「データベースエンジンの構成」ダイアログボックスが表示されます。

[Windows 認証モード(W)] をオンにします。

以降は画面の指示に従って、セットアップを完了してください。

8. セットアップ完了時に、OS 再起動を促すメッセージが表示される場合があります。

その場合は、SQL Server のインストーラを終了させた後、以下の手順でクラスタのリポートを行ってください。

※OS 再起動を促すメッセージが表示されなかった場合は、実施は不要です。

1. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
2. WebManager 画面の左サイドビューにある "クラスタ名" を右クリックし、プルダウンメニューから「リポート(B)」を選択します。
3. 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
4. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
5. しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
6. OS が再起動したら、作業を行う待機系サーバに Administrator でログインします。
7. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
8. しばらくすると、マネージャ画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

9. 手順 8 でクラスタリブートをした後、待機系へのフェイルオーバーグループのリソース移動を行ってください。

※手順 8 でクラスタリブートをしていない場合は、実施は不要です。

1. WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failoverxxx] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
2. 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェイルオーバー) 先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

3. WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて "起動済" になることを確認します。

10. 以下のいずれかの方法で、インストールした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack を適用してください。

- Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
- SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

11. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

開始するサービス一覧

[DeploymentManager]

- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning]、および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、"SQL Server (インスタンス名)" となります。

=====

18. ソフトウェアのアップグレードインストール（待機系サーバでの作業）

=====

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

1. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」（以下、省略します）の「3.2. インストール（アップグレード）を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および事前作業を実施します。

1. 「3.2.3. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア」の手順を実施してください。
2. 「3.2.5. インストール（アップグレード）実行前の注意」の部分は、以下の手順を実施してください。

SigmaSystemCenter のインストール（アップグレード）を始める前に、必ず使用しているアプリケーション、および Web ブラウザをすべて終了してください。

※CLUSTERPRO WebManager を起動している場合、Java 2 Runtime Environment のインストールに失敗する場合があります。必ず終了してください。

2. 「3.3. 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」を参照して、アップグレードインストールを行います。

1. 「3.3.1. DPM のサービスを停止する」の手順に従って、Apache Tomcat サービス、および "DeploymentManager" で始まるサービスがすべて停止していることを確認してください。

停止していないサービスがある場合は、記載された手順を参照してプロセスを強制終了してください。

2. 「3.3.2. インストール（アップグレード）を実行するには」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SigmaSystemCenter 3.0 DVD-R を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール DVD-R:¥ManagerSetup.exe /CLUSTERSTANDBY=1

<注意>

待機系サーバでインストーラを起動する場合、オプション
"/CLUSTERSTANDBY=1" を必ず指定してください。

3. インストーラが起動し、ウィザードが開始します。

3. 「3.3.3. コンポーネントの選択」の部分は、以下の手順を実施してください。

インストーラ起動後、「コンポーネントの選択」画面が表示されます。

インストールするコンポーネントを選択します。

[SQL Server 2008 R2 Express] チェックボックスをオフにしてください。

選択完了後、[次へ(N)>] をクリックします。

4. 「3.3.4. インストール先フォルダの選択」の手順を実施してください。

5. 「3.3.5. SQL Server 情報の設定」の部分は、以下の手順を実施してください。

「SQL Server 情報の設定」画面が表示されます。

「17.インストールを行う前に (SQL Server 2008 R2 上位エディションのインストール)」でインストールした SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視が使用する SQL のインスタンス名 (既定値 : SSCCMDB) を指定してください。

6. 「3.3.6. Windows ファイアウォールの設定」の手順を実施してください。

7. 「3.3.7. ESMPRO/ServerManager の設定」の手順を実施してください。

8. 「3.3.8. インストール (アップグレード) の開始」の手順を実施してください。

9. 「3.3.9. インストール (アップグレード) の完了」の部分は、以下の手順を実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール後、「完了」画面が表示されます。

システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、[後で手動で再起動する] を選択して、[完了(F)] をクリックしてください。

※この時点ではシステムの再起動は行わないように注意してください。

3. 「3.4.3. SigmaSystemCenter 1.3 の Apache Tomcat をアンインストールするには」の手順を実施してください。

19. SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL インスタンスのアンインストール

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※本手順では、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していた SQL のインスタンスのアンインストールを行います。

※インスタンスが SQL Server 2000 の場合と SQL Server 2005 の場合で、アンインストール手順が異なります。該当するほうの手順を参照ください。

■SQL Server 2000 の場合

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から以下のインスタンスを選択し、[削除] をクリックします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM_PFMDBIS ※

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

3. 表示される画面に従って操作を進めてください。

■SQL Server 2005 の場合

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。

3. 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で以下のインスタンスをオンにします。

[SystemProvisioning]

- PVMINF_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- RM_PFMDBIS ※

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

4. 表示される画面に従って操作を進めてください。

20. サービスの設定

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※本手順では「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」を参照します。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

手動に設定するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- DianaScope ModemAgent
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service

- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Common Component
- ESMPRO/SM Trap Redirection
- ESMPRO/SM Web Container

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mftftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning]、および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB) ※

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で
「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

ただし、SigmaSystemCenter 1.3 の構築時に「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築
資料」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソー
ス (またはサービスリソース) によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順

を実施してください。(サービスがスクリプトリソース (またはサービスリソース) によって起動されるように設定していない場合は、本手順は実施不要です。)

手動に設定するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation

21. データベースのデタッチ

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※SQL インスタンス接続後のプロンプト "1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、実際には 1 行で入力してください。

※sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

2. DeploymentManager のデータベースのデタッチを行います。

1. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----  
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI  
1> alter database [DPM] set offline with ROLLBACK  
IMMEDIATE  
2> exec sp_detach_db 'DPM',TRUE  
3> go  
-----
```

22. ESMPRO/ServerManager の設定ファイルの編集

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

1. 以下のフォルダを削除します。

- ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダを
「C:¥Program Files¥NEC¥SMM」

とした場合

C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro
¥WEB-INF¥service

C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥esmpro
¥WEB-INF¥db

C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥pkgpool

※フォルダが存在しない場合、削除は不要です。

2. 以下のように設定ファイルを編集します。

- ESMPRO/ServerManager のインストールフォルダを
「C:¥Program Files¥NEC¥SMM」
- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- Yドライブの service フォルダを「Y:¥SMM¥WEB-INF¥service」

とした場合

- C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslcmn¥jsl.ini

```
-----  
wrkdir=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service  
stderr=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service¥log¥stderr.log  
stdout=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service¥log¥stdout.log  
-----
```

- C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥jslweb¥jsl.ini

```
-----  
wrkdir=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service  
stderr=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service¥log¥stderr.log  
stdout=Y:¥SMM¥WEB-INF¥service¥log¥stdout.log  
-----
```

- C:¥Program Files¥NEC¥SMM¥ESMWEB¥wbserver¥webapps¥axis2
¥WEB-INF¥classes¥eci.service.properties

```
-----  
options.txt.fullpath=Y:¥¥SMM¥¥WEB-INF¥¥service¥¥options.txt  
-----
```

※フォルダの区切り文字には "¥¥" を使用してください。

23. サービスの停止

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※本手順では「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築資料」を参照します。

-
1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスのうち、開始状態のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- DianaScope ModemAgent
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Common Component
- ESMPRO/SM Trap Redirection
- ESMPRO/SM Web Container

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Schedule Management

- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning]、および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB) ※

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

※「別のサービスの停止」画面が表示された場合は、[はい(Y)] をクリックしてください。
サービスが停止されます。

2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] – [管理ツール] – [サービス] で
「サービス」画面を表示し、以下のサービスのうち、開始状態のサービスを停止します。

ただし、SigmaSystemCenter 1.3 の構築時に「SigmaSystemCenter 1.3 クラスタ構築
資料」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソー
ス (またはサービスリソース) によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順
を実施してください。(サービスがスクリプトリソース (またはサービスリソース) によって
起動されるように設定していない場合は、本手順は実施不要です。)

停止するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation

24. フェイルオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

1. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
2. 左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failoverxxx] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
3. 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールバック) 先の現用系サーバを選択し、[OK] をクリックします。
※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
4. WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が現用系のサーバ側で、すべて "起動済" になることを確認します。
5. CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行います。

25. CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの変更

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 クラスタ構築手順」を参照して実施してください。

1. CLUSTERPRO のサービス停止
 1. WebManager 画面の上部にある [サービス] をクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ停止 (T)」を選択します。
 2. 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックして停止します。
※処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
 3. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。

4. WebManager 画面の左サイドビューに、「停止」というメッセージが表示されていることを確認します。
5. CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行います。

2. CLUSTERPRO Builder の起動と構成情報の復元

1. WebManager 画面のツールバーのドロップダウンメニューで [設定モード] を選択して、CLUSTERPRO Builder を起動します。
2. 現在の CLUSTERPRO の構成情報を復元するため、CLUSTERPRO Builder の [ファイル(F)] メニューをクリックし、プルダウンメニューから [設定のインポート(I)] をクリックします。
3. 「開く」画面が表示されたら、「1.CLUSTERPRO のフェイルオーバーグループのリソースの削除」で保存した、現用系サーバ上のフォルダ (例えば C:¥TEMP) を指定し、clp.conf というファイル名が表示されているのを確認して [開く] をクリックします。

3. スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、およびサービスリソースの復元確認

1. 左サイドビューの中で、[Groups] フォルダの中の [failoverxxx] をクリックします。
2. 右サイドビューの [リソース一覧] タブをクリックし、フェイルオーバーグループに設定されているリソースを表示させます。
3. 項目名の「タイプ」で、「スクリプトリソース」、「レジストリ同期リソース」、および「サービスリソース」が表示 (復元) されていることを確認します。
(「サービスリソース」は元々登録されていなかった場合は、表示されません。)

4. スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、およびサービスリソースの構成情報の変更

本手順にて、SigmaSystemCenter 3.0 用に構成情報の設定変更を行う必要があります。設定内容の変更点については、「SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 3.0 の設定内容の変更点」を参照ください。変更方法については、問い合わせ窓口にお問い合わせください。

また、SigmaSystemCenter 1.3 で使用していたレジストリ、サービス、SQL インスタンスのうち、SigmaSystemCenter 3.0 では使用しなくなったものがあります。SigmaSystemCenter 3.0 で使用しなくなったものについては、スクリプトリソース、レジストリ同期リソース、およびサービスリソースから削除してください。

5. 情報ファイルのアップロードと CLUSTERPRO Builder の終了

1. 現在の CLUSTERPRO の構成情報をアップロードするため、CLUSTERPRO Builder の [ファイル(F)] メニューをクリックし、プルダウンメニューから [設定の反映(A)] をクリックします。
2. 「確認」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
3. しばらくすると「反映に成功しました。」という画面が表示されるので、[了解] をクリックします。
4. WebManager 画面のツールバーのドロップダウンメニューで [操作モード] を選択して、CLUSTERPRO Builder を終了します。

6. CLUSTERPRO のサービス開始

1. WebManager 画面の上部にある [サービス] をクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ開始(A)」を選択します。
2. 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
3. しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューに「クラスタ構成」画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
4. CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行います。

26. クラスタシステムのリブート

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

-
1. WebManager 画面の左サイドビューにある "クラスタ名" を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート(B)」を選択します。
 2. 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
 3. しばらくして「エラー」、または「警告」画面が表示された場合は、[OK] をクリックします。
 4. しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
 5. OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。
 6. ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

7. しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューに「クラスタ構成」画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

27. CLUSTERPRO での監視対象サービスの監視の停止（現用系サーバでの作業）

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※アップグレードインストール後の設定を実施する前に、監視対象サービスの監視を停止します。

-
1. [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。
 2. 「アプリケーション / サービス名」で表示されている、すべてのサービスの監視を停止します。

表示されているサービス名を、1 サービスごとに以下の方法で "非監視" に設定してください。

(サービスを "非監視" に設定する方法)

- 表示されているサービス名を右クリックします。
- [監視停止] を選択し、「実行確認」画面で [OK] をクリックして監視を停止します。
- このとき、監視対象サービスの [監視状態] が "非監視" に変わることを確認してください。

3. 表示されている、すべてのサービスが "非監視" に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

28. Web ブラウザのキャッシュクリア（現用系サーバでの作業）

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザごとに異なりますので、別途ご確認をお願いします。

以下、主なブラウザについて記載します。

◆ Internet Explorer 7 の場合

1. ブラウザのメニューより、[ツール] - [インターネットオプション] - [全般] タブを選択し、[閲覧の履歴] から [削除] をクリックします。
2. 「閲覧履歴の削除」画面が表示されますので、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] をクリックしてください。
3. 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] をクリックします。

◆ FireFox 3.5 の場合

1. ブラウザのメニューより、[ツール] - [最近の履歴を消去] をクリックします。
2. [消去する履歴の期間] で [すべての履歴] を選択します。
また、[消去する項目] にて [キャッシュ]、[Cookie] にチェックボックスが選択されていることを確認してください。
3. [今すぐ消去] をクリックします。

=====

29. アップグレードインストール後に必要な設定の実施（現用系サーバでの作業）

=====

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

※本手順では、DeploymentManager が使用する Deploy フォルダ（イメージ格納用フォルダ）と DeployBackup フォルダ（バックアップイメージ格納用フォルダ）を、以下とした場合を例にして記載します。

- ・共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・Yドライブの Deploy フォルダ（イメージ格納用フォルダ）を「Y:¥Deploy」
- ・Yドライブの DeployBackup フォルダ（バックアップイメージ格納用フォルダ）を「Y:¥DeployBackup」

1. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」（以下、省略します）の「3.5. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。
 1. 「3.5.2. DPM サーバをアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。
 2. 「3.5.8. SigmaSystemCenter 2.1 以前の ESMPRO/ServerManager Ver.4 からアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。
 3. 「3.5.5. SystemProvisioning をアップグレードインストールした場合」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SystemProvisioning のアップグレードインストールを行った場合には、SigmaSystemCenter の使用を開始する前に、ライセンスキーを登録してください。手順に関しては、「3.5.5. SystemProvisioning をアップグレードインストールした場合」の「ライセンスの置き換えについて」を参照してください。なお、「8. SystemProvisioning を再起動します。」の手順は実施する必要ありません。
2. DeploymentManager の管理サーバの設定を行います。
 1. DPM の Web コンソールを起動します。
 2. Web コンソール上で、タイトルバーの [管理] をクリックして、[管理] ビューに切り替えます。
 3. ツリービュー上で、[DPM サーバ] アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに [管理機能一覧] グループボックスが表示されますので、[DPM サーバ] をクリックします。
 4. [基本情報] グループボックスが表示されますので、[設定] メニューの [詳細設定] をクリックし、「詳細設定」画面が表示されます。
 5. [全般] タブを選択し、以下の設定を確認します。
 - IP アドレスに DPM サーバで使用するフェイルオーバー IP が設定されていること
 - バックアップイメージ格納用フォルダに「Y:¥DeployBackup」（共有ディスク、またはミラー化されたディスクのフォルダ）が設定されていること
設定されていない場合は、バックアップイメージ格納用フォルダに「Y:¥DeployBackup」を設定してください。
 - イメージ格納用フォルダに「Y:¥Deploy」（共有ディスク、またはミラー化されたディスクのフォルダ）が設定されていること
 6. [DHCP サーバ] タブを選択し、[DHCP サーバが別のマシン上で動作している] をオンにします。

サービスの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、ここで該当するサービスの再起動を行う必要はありません。
 7. [OK] をクリックします。
 8. Web コンソール上で、タイトルバーの [運用] をクリックして、[運用] ビューに切り替えます。

9. ツリービュー上で、[シナリオ] アイコンをクリックします。メインウィンドウに [グループ一覧] グループボックスが表示されますので、[Built-in Scenarios] をクリックします。
10. シナリオファイル System_Backup の編集を行います。System_Backup の [編集] アイコンをクリックします。
「シナリオ編集」画面が表示されますので、[バックアップ/リストア] タブをクリックします。
[イメージファイル] のパスを、Y:¥DeployBackup¥backup.lbr に変更し、[OK] をクリックします。
11. シナリオファイル System_Restore_Unicast の編集を行います。
System_Restore_Unicast の [編集] アイコンをクリックします。
「シナリオ編集」画面が表示されますので、[バックアップ/リストア] タブをクリックします。
[イメージファイル] のパスを、Y:¥DeployBackup¥backup.lbr に変更し、[OK] をクリックします。
12. ブラウザを閉じて DPM の Web コンソールを終了します。

30. フェイルオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

1. WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failoverxxx] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
2. 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェイルオーバー) 先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。
※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
3. WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて "起動済" になることを確認します。

31. Web ブラウザのキャッシュクリア（待機系サーバでの作業）

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザごとに異なりますので、別途ご確認をお願いします。

以下、主なブラウザについて記載します。

◆ Internet Explorer 7 の場合

1. ブラウザのメニューより、[ツール] - [インターネットオプション] - [全般] タブを選択し、[閲覧の履歴] から [削除] をクリックします。
2. 「閲覧履歴の削除」画面が表示されますので、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] をクリックしてください。
3. 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] をクリックします。

◆ FireFox 3.5 の場合

1. ブラウザのメニューより、[ツール] - [最近の履歴を消去] をクリックします。
2. [消去する履歴の期間] で [すべての履歴] を選択します。
また、[消去する項目] にて [キャッシュ]、[Cookie] チェックボックスが選択されていることを確認してください。
3. [今すぐ消去] をクリックします。

32. アップグレードインストール後に必要な設定の実施（待機系サーバでの作業）

※この作業は「待機系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

1. 待機系サーバに Administrator でログインします。

2. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.5. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。
 1. 「3.5.2. DPM サーバをアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。

33. フェイルオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

-
1. 左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failoverxxx] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
 2. 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールバック) 先の現用系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

※移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

3. WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が現用系のサーバ側で、すべて "起動済" になることを確認します。

34. アップグレードインストール後に必要な設定の実施 (現用系サーバでの作業)

※この作業は「現用系サーバ」で行ってください。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

-
1. 現用系サーバに Administrator でログインします。
 2. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.5.6. SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードした場合」を参照して、必要に応じてアップグレードインストール後に必要な設定を実施します。
 3. SystemProvisioning の設定ファイルを変更する場合は、現用系サーバと待機系サーバに同じファイルをコピーしてください。詳細は「SystemProvisioning の設定ファイル」を参照してください。

=====

35. 管理対象マシンのアップグレードインストール

=====

※DPM サーバをアップグレードインストールした場合、DPM クライアントのアップグレードインストールが必要になります。

※「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

1. 「SigmaSystemCenter 3.0 インストレーションガイド」 「3.6 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」、および「DeploymentManager インストレーションガイド」の「3.3 DPM クライアントをアップグレードインストールする」を参照してください。

以上でアップグレードインストール作業は完了です。

SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 3.0 の設定内容の変更点

SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 3.0 の設定内容の変更点は以下の通りです。

(1) データベース

■SigmaSystemCenter 3.0 で追加されたデータベース

SigmaSystemCenter 3.0 で DeploymentManager のデータベースが追加されました。

[DeploymentManager]

- ・ サービス : MSSQL\$DPMDBI
表示名 : SQL Server (DPMDBI)
データベースファイル : DPM_DATA.mdf, DPM_LOG.ldf
データベース名 : DPM

■SigmaSystemCenter 3.0 で変更されたデータベース

SigmaSystemCenter 1.3 と SigmaSystemCenter 3.0 では、SystemProvisioning、および SystemMonitor 性能監視が使用する SQL のインスタンス名が変更されました。それに伴い、インスタンスのサービスが変更されました。また、SystemProvisioning のデータベースファイルが変更されました。

[SystemProvisioning]

- ・ SigmaSystemCenter 1.3
サービス : MSSQL\$PVMINF_INSTANCE
表示名 : MSSQL\$PVMINF_INSTANCE
データベースファイル : PVMINF.mdf, PVMINF_log.ldf
データベース名 : PVMINF

・ SigmaSystemCenter 3.0

サービス : MSSQL\$SSCCMDB ※

表示名 : SQL Server (SSCCMDB)

データベースファイル : PVMINF.mdf, PVMINF_2.ndf, PVMINF_log.ldf

データベース名 : PVMINF

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービス名、表示名は、それぞれ “MSSQL\$インスタンス名”、“SQL Server (インスタンス名)” となります。

[SystemMonitor 性能監視]

・ SigmaSystemCenter 1.3

サービス : MSSQL\$RM_PFMDBIS ※

表示名 : MSSQL\$RM_PFMDBIS

データベースファイル : RM_PerformanceDataBase2.mdf,
RM_PerformanceDataBase2_log.ldf

データベース名 : RM_PerformanceDataBase2

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、変更後のインスタンス名 となります。

・ SigmaSystemCenter 3.0

サービス : MSSQL\$SSCCMDB ※

表示名 : SQL Server (SSCCMDB)

データベースファイル : RM_PerformanceDataBase2.mdf,
RM_PerformanceDataBase2_log.ldf

データベース名 : RM_PerformanceDataBase2

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービス名、表示名は、それぞれ “MSSQL\$インスタンス名”、“SQL Server (インスタンス名)” となります。

(2) 同期レジストリ

■SigmaSystemCenter 3.0 で追加されたレジストリ

[DeploymentManager]

- ・ HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\DeploymentManager_DB

■SigmaSystemCenter 3.0 で削除されたレジストリ

SigmaSystemCenter 3.0 で SystemMonitor 障害監視のレジストリは削除されました。

[SystemMonitor 障害監視] ※

- ・ HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\RM\Service\Common

※SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

(3) 監視対象のサービス

■SigmaSystemCenter 3.0 で追加されたサービス

[ESMPRO/ServerManager]

- ・ 表示名 : DianaScope ModemAgent
サービス : DianaScope ModemAgent
- ・ 表示名 : ESMPRO/SM Common Component
サービス : ESMCommonComponent
- ・ 表示名 : ESMPRO/SM Web Container
サービス : ESMWebContainer

[DeploymentManager]

- ・ 表示名 : SQL Server (DPMDBI)
サービス : MSSQL\$DPMDBI

[SystemProvisioning および SystemMonitor 性能監視]

- ・ 表示名 : SQL Server (SSCCMDB) ※
サービス : MSSQL\$SSCCMDB

※インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービス名、表示名は、それぞれ “MSSQL\$インスタンス名”、“SQL Server (インスタンス名)” となります。

■SigmaSystemCenter 3.0 で削除されたサービス

[DeploymentManager]

- ・ 表示名 : Apache Tomcat
サービス : Tomcat5
- ・ 表示名 : DeploymentManager Client Management
サービス : cliwatch
- ・ 表示名 : DeploymentManager client start
サービス : clistart
- ・ 表示名 : DeploymentManager Scenario Management
サービス : snrwatch

[DeploymentManager (HP-UX)] ※

- ・ 表示名 : DeploymentManager (HP-UX)
サービス : DeploymentManager (HP-UX)
- ・ 表示名 : DeploymentManager (HP-UX) Constructor
サービス : DeploymentManager (HP-UX) Constructor
- ・ 表示名 : DeploymentManager (HP-UX) Watcher
サービス : DeploymentManager (HP-UX) Watcher

※SigmaSystemCenter 3.0 で、SigmaSystemCenter による管理サーバ for DPM (HP-UX) 機能はサポート終了しました。

[SystemProvisioning]

- ・ 表示名 : MSSQL\$PVMINF_INSTANCE
サービス : MSSQL\$PVMINF_INSTANCE

[SystemMonitor 性能監視]

- ・ 表示名 : MSSQL\$RM_PFMDBIS ※
サービス : MSSQL\$RM_PFMDBIS

※インスタンス名を既定値 (RM_PFMDBIS) より変更した場合、
変更後のインスタンス名 となります。

[SystemMonitor 障害監視] ※

- ・ 表示名 : SystemMonitor Service
サービス : smonservice
- ・ 表示名 : SystemMonitor ESMPRO Service
サービス : smonesmservice
- ・ 表示名 : SystemMonitor VM Service
サービス : smonvmservice

※SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

(4) サービスの起動順/起動方法

■SigmaSystemCenter 3.0 で変更されたサービスの起動順/起動方法

[ESMPRO/ServerManager]

・ SigmaSystemCenter 1.3

1. ESM Base Service
2. ESM Alert Service
3. Alert Manager Socket(R) Service
4. Dmi Event Watcher (*1)
5. ESM Command Service
6. ESM Remote Map Service
7. ESMPRO/SM Trap Redirection (*2)
8. ESMPRO/SM Base Service

(*1) DMI アラートを受信しない場合、起動は不要です。

(*2) SNMP トラップ転送サービスを使用しない場合、起動は不要です。

・ SigmaSystemCenter 3.0

1. ESM Base Service
2. ESM Alert Service
3. Alert Manager Socket(R) Service
4. Dmi Event Watcher (*1)
5. ESM Command Service
6. ESM Remote Map Service
7. ESMPRO/SM Trap Redirection (*2)
8. ESMPRO/SM Base Service
9. ESMPRO/SM Web Container
10. ESMPRO/SM Common Component
11. DianaScope ModemAgent

(*1) DMI アラートを受信しない場合、起動は不要です。

(*2) SNMP トラップ転送サービスを使用しない場合、起動は不要です。

[DeploymentManager]

・ SigmaSystemCenter 1.3

1. Apache Tomcat
2. DeploymentManager API Service
3. DeploymentManager Backup/Restore Management
4. DeploymentManager Client Management
5. DeploymentManager client start
6. DeploymentManager Get Client Information
7. DeploymentManager PXE Management
8. DeploymentManager PXE Mtftp
9. DeploymentManager Remote Update Service
10. DeploymentManager Scenario Management
11. DeploymentManager Schedule Management
12. DeploymentManager Transfer Management

2. ～ 12. の DPM サービスの開始順に制約はありません。

・ SigmaSystemCenter 3.0

1. SQL Server (DPMDBI)
2. DeploymentManager API Service
3. DeploymentManager Backup/Restore Management
4. DeploymentManager Get Client Information
5. DeploymentManager PXE Management
6. DeploymentManager PXE Mtftp
7. DeploymentManager Remote Update Service
8. DeploymentManager Schedule Management
9. DeploymentManager Transfer Management

2. ～ 9. の DPM サービスの開始順に制約はありません。

[SystemProvisioning]

- SigmaSystemCenter 1.3

1. データベースの起動 : MSSQL\$PVMINF_INSTANCE
2. サービスの起動
pvmcmd /start

- SigmaSystemCenter 3.0

1. データベース : SQL Server (SSCCMDB)
2. PVMSERVICE

[SystemMonitor 性能監視]

- SigmaSystemCenter 1.3

1. データベース : MSSQL\$RM_PFMDBIS
2. System Monitor Performance Monitoring Service

- SigmaSystemCenter 3.0

1. データベース : SQL Server (SSCCMDB)
2. System Monitor Performance Monitoring Service

■SigmaSystemCenter 3.0 で削除されたサービスの起動

[DeploymentManager (HP-UX)] ※

- DeploymentManager (HP-UX)
- DeploymentManager (HP-UX) Constructor
- DeploymentManager (HP-UX) Watcher
- Tomcat

※SigmaSystemCenter 3.0 で、SigmaSystemCenter による管理サーバ for DPM (HP-UX) 機能はサポート終了しました。

[SystemMonitor 障害監視] ※

- ・ SystemMonitor Service
- ・ SystemMonitor ESMPRO Service
- ・ SystemMonitor VM Service

※SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

(5) サービスの停止順/停止方法

■SigmaSystemCenter 3.0 で変更されたサービスの停止順 / 停止方法

[ESMPRO/ServerManager]

・ SigmaSystemCenter 1.3

1. ESMPRO/SM Base Service
2. ESMPRO/SM Trap Redirection (*1)
3. ESM Remote Map Service
4. ESM Command Service
5. Dmi Event Watcher (*2)
6. Alert Manager Socket(R) Service
7. ESM Alert Service
8. ESM Base Service

(*1) SNMP トラップ転送サービスを使用しない場合、停止は不要です。

(*2) DMI アラートを受信しない場合、停止は不要です。

・ SigmaSystemCenter 3.0

1. DianaScope ModemAgent
2. ESMPRO/SM Common Component
3. ESMPRO/SM Web Container
4. ESMPRO/SM Base Service
5. ESMPRO/SM Trap Redirection (*1)
6. ESM Remote Map Service
7. ESM Command Service
8. Dmi Event Watcher (*2)

9. Alert Manager Socket(R) Service
10. ESM Alert Service
11. ESM Base Service

(*1) SNMP トラップ転送サービスを使用しない場合、停止は不要です。

(*2) DMI アラートを受信しない場合、停止は不要です。

[DeploymentManager]

・SigmaSystemCenter 1.3

1. DeploymentManager Transfer Management
2. DeploymentManager Schedule Management
3. DeploymentManager Scenario Management
4. DeploymentManager Remote Update Service
5. DeploymentManager PXE Mtftp
6. DeploymentManager PXE Management
7. DeploymentManager Get Client Information
8. DeploymentManager client start
9. DeploymentManager Client Management
10. DeploymentManager Backup/Restore Management
11. DeploymentManager API Service
12. Apache Tomcat

1. ～ 11. の DPM サービスの停止順に制約はありません。

・SigmaSystemCenter 3.0

1. DeploymentManager API Service
2. DeploymentManager Backup/Restore Management
3. DeploymentManager Get Client Information
4. DeploymentManager PXE Management
5. DeploymentManager PXE Mtftp
6. DeploymentManager Remote Update Service
7. DeploymentManager Schedule Management
8. DeploymentManager Transfer Management
9. SQL Server (DPMDBI)

1. ～ 8. の DPM サービスの停止順に制約はありません。

[SystemProvisioning]

・ SigmaSystemCenter 1.3

1. 運用管理ツールの停止

`taskkill /F /IM PVMConsole.exe`

2. サービスの停止

`pvmcmd /stop`

3. サービスの強制停止

`pvmcmd /killproc`

4. データベースの停止 : MSSQL\$PVMINF_INSTANCE

・ SigmaSystemCenter 3.0

1. PVMService

2. データベース : SQL Server (SSCCMDB)

[SystemMonitor 性能監視]

・ SigmaSystemCenter 1.3

1. System Monitor Performance Monitoring Service

2. データベース : MSSQL\$RM_PFMDBIS

・ SigmaSystemCenter 3.0

1. System Monitor Performance Monitoring Service

2. データベース : SQL Server (SSCCMDB)

■ SigmaSystemCenter 3.0 で削除されたサービスの停止

[DeploymentManager (HP-UX)] ※

- ・ DeploymentManager (HP-UX) Watcher
- ・ DeploymentManager (HP-UX) Constructor
- ・ DeploymentManager (HP-UX)

※SigmaSystemCenter 3.0 で、SigmaSystemCenter による管理サーバ for DPM (HP-UX) 機

能はサポート終了しました。

[SystemMonitor 障害監視] ※

- ・ SystemMonitor VM Service
- ・ SystemMonitor ESMPRO Service
- ・ SystemMonitor Service

※SystemMonitor 障害監視は、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。

SystemProvisioning の設定ファイル

以下の SystemProvisioning の設定ファイルの内容を変更する場合、現用系サーバと待機系サーバで同じ設定にする必要があります。

SystemProvisioning インストールフォルダ配下（既定値：C:\Program Files\NEC\PMV\）

ファイル名 / フォルダ名	説明
Provisioning\App_Data\Config \CustomizationConfig.xml	コンソール機能の有効 / 無効、スクリーンショット機能の有効 / 無効等、Web コンソールによる操作に関する設定情報を管理するファイルです。
conf\EsmEvents.xml	ESMPRO/ServerManager にて扱うイベントに関する情報定義ファイルです。
conf\oscustom	ホストプロファイルに指定する sysprep 応答ファイルを格納するフォルダです。

作成日：2011/06/20
最終更新日：2012/01/20